

平成 30 年度新宿区外部評価委員会第 3 部会 第 6 回会議概要

<開催日>

平成 30 年 8 月 10 日（金）

<場所>

本庁舎 6 階 第 3 委員会室

<出席者>

外部評価委員（5 名）

山口道昭、岸本幸子、小菅知三、田中健士、横倉泰信

事務局（3 名）

宮端行政管理課長、池田主査、吉江主査

<開会>

【部会長】

皆さん、こんにちは。

ただ今から第 6 回新宿区外部評価委員会第 3 部会を開催します。

前回は、計画事業の評価と経常事業の取組状況に対する意見について議論をしましたが、本日は、施策評価として、個別施策Ⅲ－11「魅力ある商店街の活性化に向けた支援」について、評価の取りまとめを行います。

まず、個別施策Ⅲ－11「魅力ある商店街の活性化に向けた支援」について議論したいと思いますので、各委員のご意見の説明等をお願いします。

私の意見の説明から始めます。

本個別施策の目標として「魅力ある商店街の活性化」があります。そして、これに向けた支援のための事業が策定されています。

何のために商店街を活性化するのかということが、重要だと思います。また、商店街を活性化することによって、誰に対してどのような効果が生まれるのか、あるいは、取り組んでいる事業が現在の社会経済情勢の中で達成可能なのだろうか。これらのことを改めて精査するべきではないかと思います。

ヒアリング等を通じて個別に事業を見ていくと、日本語学校（専門学校）との連携を検討し、外国人を取り込んでいくなど、新たな取組も始まっているように思いました。このような新規事業については、より積極的に取り組んでいくべきだと思いますし、既存事業だけでは難しい部分もあると思います。このようなことも含めて、既存事業の見直しを検討しても良いのではないかと感じました。

【委員】

個別施策全体としては、それぞれの事業は成果を上げていると評価します。ただやはり、見直しが必要な部分もあるのではないかと思います。

例えば、経常事業541「商店街消費拡大推進事業」については、スクラッチくじ方式の抽選券の換金率が69.6%という点も考慮し、イベントの形骸化が懸念されます。消費者にとって魅力のあるものなのか、商店街への寄与度、店主の希望等、一度見直しする時期にあるのではないかと思います。また、経常事業538「生鮮三品小売店活性化事業」については、生鮮三品小売店連絡会の加盟店が当初より大幅に減少している点に鑑み、今後、事業の見直しも検討すべきではないかと思います。さらに、計画事業83「商店街空き店舗活用支援」については、事業開始から間もないこともあり、目標を達成していないため、「計画以下」と評価します。今後は、支援物件の表示方法や他事業との連携等、活用方法の改善が必要だと思えます。

【委員】

基本政策の下に個別施策が位置付けられており、その具体的な事業として、計画事業、経常事業があります。

総合計画の下支えとして、基本政策Ⅳ「健全な区財政の確立」、基本政策Ⅴ「好感度1番の区役所」が位置付けられているということを前提として、個別施策Ⅲ-11「魅力ある商店街の活性化に向けた支援」があります。めざすまちの姿に向けて、内部評価では「①商店街活動に対する支援」、「②商店街活動の参考となる情報の提供」、「③地域の多様な主体との連携」という三つの視点で取り組んでいるということは理解できます。しかし、その前提として、新宿区は多様な特色を持っているので、そのような特色を商店街の中での領域別に分類できると、区民としてはより分かりやすいと思えます。また、魅力ある商店街についての定義が内部評価の中には見られません。これは、商店街が自主的に示していくものであり産業振興課で示すべきものではないことは分かりますが、商店街支援に取り組んでいく上では、商店街のあるべき姿を出していただいたほうが、区民にとって分かりやすいと思えます。

【委員】

施策評価については、おおむね着実に取り組んでいると思えます。商店街は、にぎわいと魅力があるほうが良いということを前提に支援していくという場合に、商店街側の方たちが「にぎわい」という言葉をきちんと理解した上で、商店街の運営に当たっているのかどうかということに疑問を感じます。評価内容について、各事業の取組は理解できますが、商店街のにぎわいをつくり出そうという動きにつながっているのかと考えた際に、なかなかそうならないのではないかと思います。

「にぎわい」が創出されている商店街はもちろんありますし、そのようなところは地域ビジョンと商店街のビジョンが一致しています。自分たちの商店街が置かれている環境について、自分たちの個別の課題をしっかりと考えるということが必要だと思えます。そのような取組を促すような支援を区として実施していく必要があるのではないかと思います。

大学との連携事業については、一定の価値があると思えます。しかし、もう少し身近なこと

を考えるのであれば、町会や自治組織などと連携し、地域的なビジョンをしっかりと練って、商店街の課題としてこの地域で何をすべきなのかという考え方を深める機会を持たせる仕掛けが必要だと思います。大学との連携では限定的なアプローチになってしまうので、地域コミュニティとどのように連携を進めるかという考え方に重点を置いたほうが、より事業の実効性・実現性があるように感じます。

【部会長】

ありがとうございます。

では、「総合評価に対する意見」について、意見をまとめていきたいと思います。

内部評価と同様に、「役割（妥当性）」「効率性」「有効性」「成果」という視点で分析できるのではないかと思いますので、それぞれ議論していきたいと思います。

まず、「役割（妥当性）」についてです。

委員のご意見にもありましたが、「にぎわい」の定義が明確でないということもありますし、商店街の役割が認知されにくいということもあると思います。

何かご意見はありますか。

【委員】

四谷地区を例に申し上げますが、四谷地区には商店会が10あります。その中においても、大通りに面した商店会と、坂下や路地にある商店会では、全く商環境が違います。裏通りではお客さんは地域住民ですが、大通り沿いではお客さんはサラリーマンが中心です。

四谷地区に10商店会があっても、場所の特性やお客さんの違いにより、同じ内容の話し合いはあまり成立しません。「自分たちのまちにはこういう特性がある」という意識のため、それぞれの商店会の課題意識を高めていく機会がないと、従来の取組を続けていくだけということになってしまいます。そのため、今の課題をしっかりと認識し、反映したイベントや事業が十分に行われていないと感じます。

そのようなこともあり、区として助成事業を行っていても、自分たちの個々の環境を見直す、自分たちの地域資源を捉え直す、顧客を捉え直すという機会にあまりつながっていないのではないかと感じます。どこかで考えをしっかりと作るような機会を設けないと、これまでやってきたことを続けていくだけでは、今の厳しい時代において商店会は生き残っていけないのではないかと思います。

区の補助事業は必要だと思います。しかし、事業としては十分ではありません。「にぎわい」を創出しようと区が考えているのであれば、各主体が十分に取り組んでいるかについての確認も区として実施する必要があると思いますし、情報の提供については、もう少し積極的な取組が必要ではないかと思っています。商店街という主体が、もう少し積極的に自分たちが生き残っていく、自分たちの価値をもう一回見つめ直すという機会を設けるということ、区の指針の中にも盛り込んでいったほうが現実的なのではないかと考えます。

【委員】

今のご意見についてです。区が商店街を支援していくことも大事だと思います。区民のニー

ズが多様になっているため、商店街にあまり区民の目が向かないのであれば、区として、区民一人ひとりが商店街を利用するような働き掛けはできないのでしょうか。

商店街のにぎわいに向けて、地域に住んでいる住民が商店街を利用しない、商店街のことをあまりよく知らないということが、非常に大きな問題ではないかと思います。区民側の意識というものが重要だと思うので、区として、商店街のほうに目を向ける、商店街を利用するという働き掛けも必要ではないかと感じました。

【委員】

先程のご意見にあったように、地域とのつながりについては、そのとおりだと思います。商店街支援については、過去の外部評価意見を見ても、地域、町会・自治会、NPO法人とも協働して、地域を盛り上げていったほうが良いのではないかと、そのための支援が必要であるということを行っています。今回の評価においても、同様の意見が出ているかと思いますが、今後はこうしていくべきではないかという方向性を示すことができれば良いのではないかと思います。外部評価委員会だけで方向性を示すことは難しいかもしれませんが、様々な地域の主体と協力して盛り上げていかないと、商店街はなくなってしまうということもありますので、そのような意見は示すべきではないかと思います。

【部会長】

ありがとうございます。

各委員のご意見を聞いていると、「十分に取り組んでいる」という評価には至らないのではないかという気がします。

【委員】

商店街側から見た場合には、おおむね取り組んでいると思いますが、消費者側から見た場合には、不十分な面もあるのではないかと思います。

【部会長】

誰のための暮らしやすさやにぎわいなのか、という書き方もできると思います。商店街だけを対象としているのであれば、おおむね取り組んでいるが、消費者、住民、コミュニティなどの観点から見た場合には不十分であるという評価になると思います。

「効率性」という視点については、実施している事業は着実に取り組んでおり、あまり批判的なご意見はなかったように思います。

「有効性」という視点については、区民ニーズにしっかり対応できていないのではないかというご意見も出ていたと思います。

【委員】

非常に賑わっていた商店街のイベントでも、道路の拡幅等により中止になってしまったものもあります。伝統ある行事などは、区民のニーズという視点で考えれば、継続してほしいという思いもあると思いますし、魅力ある商店街という視点からは、どれくらいの道幅が良いのかということもあると思います。そのようなことも含めて考えていく必要があると思います。

【委員】

今のお話は、今回の外部評価の中心的な議論だと思います。魅力ある商店街の活性化について、道路の幅なども含めてどのような条件となるのか、その点も非常に重要な視点であるということ認識して議論するべきだと思います。

【委員】

商店会を牽引していく人も高齢化しており、若い人がイベントに参加しないという意見もありました。やはり、若い人たちにどのように参加してもらうかということも重要だと思います。

その意味では、区に頼るだけではなく、商店街の方たちも、若い人を巻き込んでにぎわいをつくっていくということが大事ではないかと思いました。

【部会長】

ありがとうございます。

先程の都市計画関係の話は「取組の方向性に対する意見」においても意見が出ていますので、後で議論したいと思います。

「有効性」という観点からは、今後の対応について検討を要するというで良いかと思えます。いろいろな意見が出ましたが、それらのことも含めて今の事業の中では取り組めていないと思います。現状では不十分な部分もあり、そのようなことにも取り組んでほしいという評価になると思います。

「成果」という視点については、おおむね成果を上げていると評価できる一方で、活気のある商店街は区の支援事業に対応できていますが、そうではない商店街についてはどう見るかということがあるかと思えます。

【委員】

全ての商店街が共通してやるべきことは、自分たちの持っている人材や環境などの資源を今後どのように展開していくかを考えることだと思います。

現在、補助金を受けている商店街については、前向きに区の制度を活用しようという意思があるので、行政も支援をしているという状況かと思えます。しかし、そのようなことをあまり考える状況にない商店街もあります。そのため、そのような商店街が自分たちの環境について考える機会を、イベントを通じて行っていくことが必要だと思います。区としても、制度を活用することの意義についてどのように考えているのかということ伝えていくべきではないかと思えます。

【部会長】

補助事業については、自主的に活動しているところに対して補助金を交付するという形なので、区としては、受け身の立場かと思えます。能動的な事業としては、情報誌「新宿商人」というものがあります。受動的な補助事業と、能動的な事業を総体的に見て、どのように評価するのかということかと思えますが、全体としては、おおむね成果を上げているが、不十分な事業もあるという評価になると思います。

次に、「取組の方向性に対する意見」について議論したいと思います。

「商店街の組織力の低下」といったことが以前から指摘されており、このことは、既に合意

されている事項なのだと思います。そうであれば、既存の事業の見直しや「商店街の組織力の低下」という新たな環境に対応する支援策も進めていくべきではないかと思います。予算という枠組みの中で取り組んでいくに当たっては、既存の事業で効果が少なくなった事業については廃止ということも一つの選択肢となるのではないかと思います。

また、先程、道路の話もありましたが、都市計画で決定したことを進めることで、商店街や地域としての一体感がなくなってしまうということもあると思います。所管課の権限を越えてしまう部分もあるかと思いますが、都市計画の見直しということも含めて、検討していくべきではないかと思います。

【委員】

商店街サポーターの活用は、必要だと思います。現状の仕事としては、書類の作成支援等が中心とのことでしたが、それだけでなく、イベントを実施する際にアシストができるような役割も求められているのではないかと思います。そのため、商店会サポーターの役割をもう少し変えていくことも必要だと思います。

大学との連携事業については、現在取り組んでいる4事業の成果を検証するとともに、他の大学とも連携を進めていき、新たなまちの魅力の発見を推進してほしいと思います。

【委員】

商店会の自主的な活動に対する補助金というのは、必要不可欠な事業だと思います。特に、イベントの実施に当たっては、補助金がないと非常に厳しい面があります。しかし、ただ補助金を交付するのではなく、イベントを行うことで学びの機会を得るほうが商店街にとっても価値があると思うので、商店街に対して自分たちで分析する機会を提供するということを含めて、事業報告等の機会にそのような勉強の時間を設けるということも必要ではないかと思います。

「新宿商人」については、情報の提供として良い試みだと思うので、区民への周知も含めて継続していただきたいと思います。

大学との連携事業については、大学側の資質から提案されるということが主で、商店街の資源や現在置かれている状況などが、どのぐらい事業の中ですり合わせができてきているのかということが疑問です。また、事業が終了した後も、その事業が地域や商店会の財産として残っていくような成果を上げられるように取り組んでいただきたいと思います。

【部会長】

ありがとうございます。

次に、「その他意見・感想」についてです。

【委員】

地域インフラとして商店街を捉えているため、暮らしやすさやにぎわいということが求められるのだと思いますが、やはり、商店街がなくなってしまうと、暮らしやすさやにぎわいということは期待できないと思います。そのため、商店街がなくならないようにするというのも、区の考え方として持っていてほしいと思います。

区が努力して商店街支援の事業に取り組んでいることは理解できますが、一番大事なことは、

それぞれの商店街が自分たちの考え方をまとめることではないかと思います。その商店街の努力の上に支援が成り立つのではないかと思うので、その最初の部分をもう少し丁寧に対応していくことが必要だと思います。

商店会サポーターや大学との連携事業、「新宿商人」についても、もう一步踏み込んでいかないと、今の商店街が考え方を深めていくという流れにはなっていないかと思います。そのため、商店街の考え方を深めるということに軸足を置いた事業のあり方について検討してほしいと思います。

【部会長】

ありがとうございます。

では、個別施策Ⅲ-11「魅力ある商店街の活性化に向けた支援」については、今の議論で出されたご意見を中心にまとめていくという形でよろしいでしょうか。

<異議なし>

【部会長】

では、計画事業評価について確認です。前回ご議論いただいたので、意見は既にたくさんいただいています。評価結果については、委員の中で一致していますので、計画事業80「にぎわいと魅力あふれる商店街支援」は「計画どおり」、計画事業81「商店街の魅力づくりの推進」は「計画どおり」、計画事業82「環境に配慮した商店街づくりの推進」は「計画どおり」、計画事業83「商店街空き店舗活用支援」は「計画以下」ということでよろしいでしょうか。

<異議なし>

【部会長】

ありがとうございます。

計画事業評価と経常事業取組状況に対する意見については、前回の議論で出た意見を中心にまとめていくような形にしたいと思います。

では、本日の部会はこれで終了とします。

お疲れさまでした。

<閉会>